

(別冊1) 平成31年度 熊本市エイズ総合対策報告書

平成31年度
各団体での取り組みについて

令和2年(2020年)4月

熊本市保健所 感染症対策課

各団体での取り組みについて

目次

平成31年度 熊本市エイズ総合対策推進会議 委員名簿

I 各団体における取り組みの実施状況について	1
II 各委員からのご意見等	6

熊本市エイズ総合対策推進会議委員名簿

R01. 8. 20 現在

	構成	氏名	所属
1	学識経験者	松下 修三	熊本大学エイズ学研究センター 教授
2		前田 ひとみ	熊本大学大学院生命科学研究部 教授
3		久保 昌子	熊本大学大学院教育学研究科 教授
4	保健・医療関係	杉野 茂人	熊本市医師会 理事
5		田中 弥興	熊本市歯科医師会 副会長
6		丸目 新一	熊本市薬剤師会 会長
7		吉村 圭子	熊本県看護協会 理事
8		椎葉 浩亮	熊本県栄養士会 熊本市地域事業部副部長
9	教育・青少年団体	夏木 良博 (新)	熊本県公立高等学校PTA連合会 会長
10		松藤 美貴 (新)	熊本県私立中学高等学校保護者会 理事
11		田中 哲郎	熊本市PTA協議会 常任理事
12		猪本 浩之 (新)	熊本市青少年健全育成連絡協議会 副会長
13		尾崎 奈留美 (新)	熊本県高等学校保健会 理事
14	人権擁護関係	丸住 朋枝	熊本県弁護士会 弁護士
15		吉村 譲二	熊本市民生委員児童委員協議会 理事
16	企業関係	川田 晃仁	熊本商工会議所 総務部 次長
17	労働団体	森岡 雅史	連合熊本地域協議会 事務局長
18	報道関係	伴 哲司	熊本日日新聞社 編集局文化生活部 次長
19	ボランティア団体関係	高山 いくこ (新)	熊本市食生活改善推進員協議会 理事
20		川口 弘蔵	Safety Blanket 代表

※任期 令和元年8月1日～令和2年7月31日

I 各団体における取り組みの実施状況について

【学識経験者】

■熊本大学教育学部

学内ではポスター掲示を貼ったり授業で取り上げたりした。

今年は中学校に教育実習に行った学生（2名）が中学3年生保健体育の授業にTT（チームティーチング）として参加した。

授業の中では性感染症の視覚教材を作成したりHIV（感染経路、症状、治療法など）を説明したりした。中学生と年齢が近い学生が授業に参画することで中学生たちの意識の向上や理解の深まりに協力できたようであった。

看護師免許を有する学生にとっても貴重な学びの機会になったと考える。

【保健・医療関係】

■熊本市医師会

- (1) 医師会員に対して通年行われている「学術アーベント」や「リフレッシュコース」等の講演会において、医師会員への啓発を継続する。
- (2) 本会のテレビ広報番組「TKU医療大百科」において、性感染症やエイズに関する情報提供を継続して行う。
- (3) 本会広報誌「森都医報」に本会議の報告記事を掲載（下記）し、エイズ・STD診療の重要性を喚起した。また、同広報誌には、行政（熊本市保健所）からの情報「HIV／エイズの現状と対策について」を掲載している。

令和元年度熊本市エイズ総合対策推進会議報告

担当理事 杉野 茂人

毎年開催されている熊本市エイズ総合対策推進会議（会長：松下修三熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター教授、他医療、PTA、教育関係者等各界より委員数20人）について報告します。令和元年8月23日（金）にウエルパルクまもにて開催されました。本会議はエイズの正しい知識の普及啓発、エイズに対する偏見や差別のないまちづくりに寄与することを目的とし平成8年より毎年開催されています。

会長による講演「エイズの現状と課題」では、エイズ予防指針の3本柱（普及啓発及び教育、検査・相談体制の充実、医療の提供・診療体制）について概説され、抗ウイルス療法の進歩により、HIV感染症の長期にわたる発症阻止が得られるだけでなく、新規感染を阻止できるようになった。HIV感染例の早期発見・早期治療開始のため検査機会の拡大を推進すべき（自己検査、郵送検査、病院内検査など）。ハイリスク群へはPrEP（暴露前予防内服）を柱とした感染予防キャンペーンなどが必要であると述べられた。

議事（熊本市感染症対策課）

1) エイズ及び性感染症の発生動向

全国の平成30年度の新規HIV感染者報告数は921件（昨年976件）とやや減少、新規AIDS患者報告数は367件（昨年413件）とやはりやや減少傾向である。また熊本県での報告数は平成30年度の新規HIV感染者報告数は6件（昨年10件）、新規AIDS患者報告数は4件（昨年2件）とやや減少傾向との結果であった。

2) 平成30年度～令和4年度HIV感染および性感染症の予防対策（計画）

熊本市内の保健所で平成30年度にHIV抗体検査を受けた件数は1197件（29年度1269件）とやや減少。令和4年の目標を1780件とし、広く検査体制の周知を行い、市民にとって利便性の高い検査体制を構築し、検査数を増やしていきたいとの報告がなされた。

また市内で梅毒報告数が急増（平成30年度：90件）していることから、梅毒報告数に関しても平成30年度から新しく成果目標とした。

3) 熊本市エイズ対策に関する平成30年度報告及び令和元年度計画

1. 正しい知識の普及啓発（高校などへの講師派遣・出前講座、パンフレット作成など）

2. 相談検査体制の充実（メール予約、休日検査の実施など）

3. 推進体制の整備（ボランティア団体との協働など）

毎年同会議の報告記事で述べているが、HIV感染イコールAIDSというわけではなく、HIV感染の早期発見（検査）と早期治療開始でAIDS発症を防ぐことができるだけでなく、感染（拡大）の予防につながる事が明らかになっている。会員施設での検査や相談に協力していくことが望まれている。

■熊本市歯科医師会

別添の会議報告を理事会にて確認した。

令和元年度熊本市エイズ総合対策推進会議報告

令和元年8月23日（金）15時より 熊本市総合保健福祉センター（ウエルパルクまもと）にて令和元年度熊本市エイズ総合対策推進会議が開催された。

田端健康福祉局長の挨拶があり、恒例により松下修三先生（ヒトレトロウイルス学共同研究センター教授）が会長挨拶をされた後、講話に移った。

講話：「エイズ・HIV感染症・現状と課題」

熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター 松下修三教授

抗ウイルス療法の進歩により、HIV感染症の長期にわたる発症阻止が得られるばかりでなく、新規感染を阻止することができるようになったが、治療が予防になる（TasP）時代、我が国における診断・治療の現状は、新規感染例を減少させるには十分ではない。HIV感染例の早期発見・早期治療開始のため、検査機会の拡大を推進すべきであり（自己検査、郵送検査、病院内検査の促進；PITC検査＝医療者主導によるHIV検査およびカウンセリング、opt-out検査など）、ハイリスク軍への暴露前予防（PrEP）を柱とした感染予防キャンペーン、コミュニティセンター事業の拡大などが必要である（地域ごとの考慮が必要）。

以上、講話の概略です。その後、松下先生の議長のもと、議事が進行された。

議 事

1) エイズ及び性感染症の発生動向

平成 30 年報告数 全国 (HIV 感染者: 921 名、エイズ患者; 367 名) 累計; 30,049 名
熊本県 (HIV 感染者: 4 名、エイズ患者; 6 名)

熊本県の昭和 61 年から総数は HIV 感染者: 107 名、エイズ患者; 68 名になっています。
また、クラミジア、性器ヘルペス、尖形コンジローム、淋病は、前年比と比較すると横ばい状態
です。梅毒は、全国的には増加傾向、本市においては 30 年度 90 例 (男性: 59、女性: 31) との
こと急増している。この原因についてはまだ特定されていない。

2) 平成 30 年度～2022 年度 HIV 感染及び性感染症の予防対策について

成果指標及び目標値

- ① HIV 抗体検査数の増加; 平成 30 年: 1197 件⇒目標令和 4 年: 1780 件
- ② 性器クラミジア感染症報告の減少; 平成 30 年: 450 件⇒目標令和 4 年: 324 件
- ③ 梅毒報告例の減少; 平成 30 年: 90 件⇒目標令和 4 年: 10 件

取り組み方針

- ① 普及啓発; 広く市民に対し、知識と意識の向上を図り、検査体制の周知を行う。
- ② 検査体制の整備; 市民にとって利便性の高い検査体制を構築する。また、特にリスクの高い
と考えられる層 (青少年、MSM、性風俗従事者・利用者等) が利用しやすい体制とする。

3) 熊本市エイズ対策事業計画

- 1 正しい知識の普及啓発
- 2 相談検査体制の充実
- 3 医療体制及び生活支援体制

【教育・青少年団体】

■熊本県私立中学高等学校保護者会

保護者会長においてエイズ総合対策推進会議の内容を報告し、併せてチラシ、ポスター
一等を配布。また、校長会においても同様に配布または電子メールにより各学校へ送信
し周知を図った。

■熊本県高等学校保健会

- ・ 6 月に全校生徒を対象とした性教育後援会を実施
- ・ 11～12 月にエイズに関する啓発ポスターを掲示

【人権擁護報道関係】

■熊本市民生委員児童委員協議会

民生委員・児童委員として人権意識を持って仕事に取り組んでいます。

市民児協として働くことはありませんが、それぞれの常任民児協においては、人間尊
重・人権尊重にかかわる行事その他に参加しているところもあるようです。

【ボランティア団体関係】

■熊本市食生活改善推進員協議会

- ・ 理事会で会議報告しました
- ・ ポスターを掲示
検査の大切さ、梅毒の増加 (若い人) 等のお話

Ⅱ 各委員からのご意見等

【人権擁護報道関係】

■熊本市民生委員児童委員協議会

(1) エイズ・STD 対策全般について

詳しいことはわかりませんが、私が文部省の研修でアメリカの教育事情を視察に行った頃（昭和 58 年）に比べると対策はずいぶん進んできたと思います。内容を正しく理解して適切な対応をすることが（必要以上の警戒をなくして）大切だと思います。社会一般の理解も進んできたのではないのでしょうか。

(2) エイズ対策推進会議について

団体の性格上、一般的な人権についての意識はあるものの組織をあげてのエイズ対策には取り組んでいません。会議に出席してもお役に立っていないのを申し訳なく思っています。